

金沢大学が空き校舎を利用し、能登半島里山里海自然学校を開校

< 石川県 >

市町村・集落の名称	珠洲市三崎町小泊地区
協働の相手(企業や大学等)の名称	金沢大学
仲介者・コーディネーターの名称	なし
協働のポイント	金沢大学「角間の里山自然学校」は、県内各地で開催したタウンミーティングやセミナー等を通じて数年前から地域貢献の一環として、奥能登地区の里山・里海の保全活動や環境に配慮した農林水産業の振興策の提言などに尽力したいと考えていたところ、「三井物産環境基金」の支援を受け、珠洲市内の空き校舎を利用し、「能登半島里山里海自然学校」を設立することとなった。
協働のきっかけ ・経緯	平成18年7月:三井物産環境基金から事業採択の結果通知。 珠洲市と折衝し拠点施設(旧小泊小学校)決定。 平成18年8月:運営委員会を発足(委員長:中村浩二金大教授) 平成18年9月:金沢大学から常駐研究員の派遣が決定。 平成18年10月:能登半島里山里海自然学校開校
取組の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・里山里海メイト(地域住民+大学生など)が三崎町小泊周辺の里山で定期的に保全活動を実施 ・三井物産社員34名が三崎町小泊周辺の里山で保全活動を実施 ・地元小学生が年間を通じて自然観察や体験実習を実施 ・環境教育の一環として、各種講演会やシンポジウムを実施
農村地域への効果	里山里海利用による総合的かつ実用的な人材が育成された。また、奥能登の里山里海保全や地域の活性化を図ることを目的としたNPO法人「能登半島おらっちゃんの里山」が設立(H20.8.25)された。
都市部の主体(企業や大学等)への効果	地域貢献を行うための拠点が整備され、地域滞在型・地域連携型の教育・研究が可能となった。
仲介者等の役割	なし
今後の課題	将来共に当該事業が持続可能となる財源の確保と、金沢大学と珠洲市の協働手法について。
関連事業(国・都道府県等)	「能登里山マイスター」養成プログラム(文部科学省)

(活動状況写真等)

能登半島里山里海自然学校開校



各種講演会・シンポジウム開催



地元小学生の自然観察会



里山保全活動

